

野の いちご

秋あきになると、ちよつとした草原くさばらや堤防ていぼうや山やまに、
小さな赤い実あかみをつけた野いちごが沢山たくさんあってね、
甘ずっぱくとてもおいしかったよ。

今いまの子のように靴くつを履はいている子なんて一人も
いなくて、はだしに草履ぞうり（わらで作った履き物）
ですから、野いちごのいばら（とげのある小さな
木）のとげが、手てや足あしに刺ささって血ちだらけ。それ
でも小さな赤い野いちごを見みつけると、

「あつた。あつた。」

と大声おほこゑで喜こいんで、取とって食くべたんですよ。

そしてね。昔むかしの子は、ちよつとした血ちぐらいで、
泣なく子は一人もいなかったんですよ。